

4. 津南～和山温泉 沿線地区

【津南～和山温泉 沿線地区の公共交通の現状】

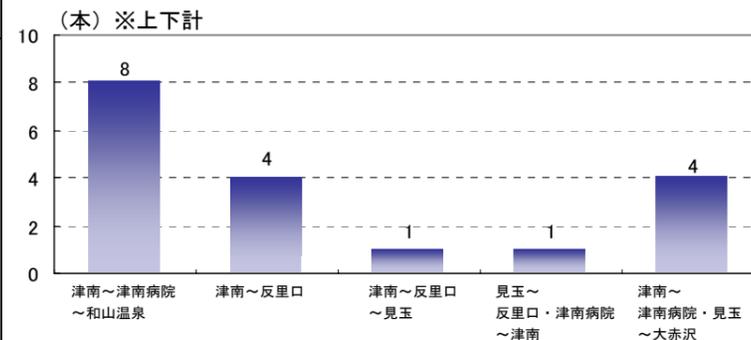
- ・当該地区への運行は区間延長が長く、片道約1時間30分。(津南～大赤沢：片道52分)
- ・路線バス「津南～大赤沢(和山温泉)」は朝便の利用者がほとんどで朝便以外の利用は少ない。
- ・路線バス「津南～反里口」は夕方17:00以降のみの運行のため、利用者が極めて少ない。
- ・路線バス・スクールバス(津南中見玉方面・中津小児童も混乗)、福祉バス「ひまわりバス」の運行ルートが概ね重複。

●路線の概況

運行本数(平日)

津南～和山温泉地区は1路線5系統行が運行。運行本数としては全体で18本。

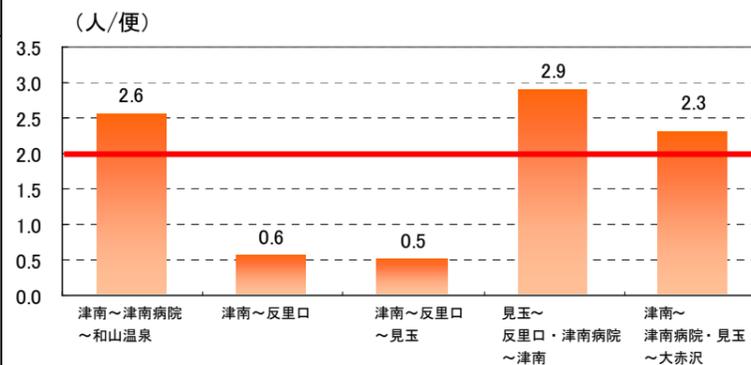
- ・「津南～津南病院～和山温泉」上下計8本(4往復)
- ・「津南～反里口」上下計4本(2往復)
- ・「津南～反里口～見玉」上下計1本(0.5往復)
- ・「見玉～反里口・津南病院～津南」上下計1本(0.5往復)
- ・「津南～津南病院・見玉～大赤沢」上下計4本(2往復)



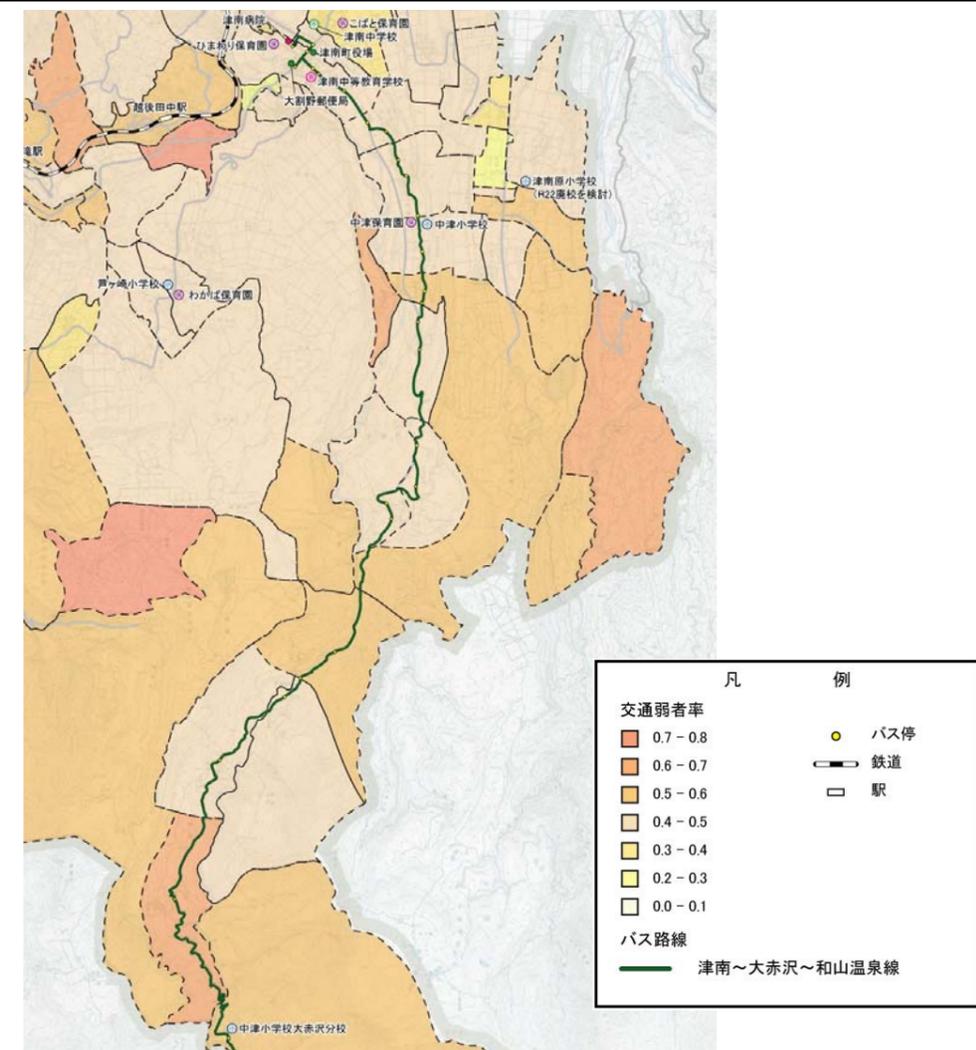
平均乗車密度

津南～和山温泉は「津南～反里口」、「津南～反里」の平均乗車密度は1.0人未満。その他系統は2.0人以上。

- ・「津南～津南病院～和山温泉」：2.6人/便
- ・「津南～反里口」：0.6人/便
- ・「津南～反里口～見玉」：0.5人/便
- ・「見玉～反里口・津南病院～津南」：2.9人/便
- ・「津南～津南病院・見玉～大赤沢」：2.3人/便



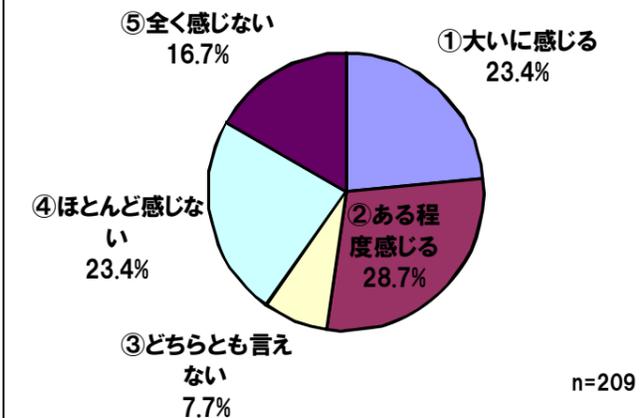
バス路線網(現況)



●住民ニーズ(※アンケート調査結果から問題点・課題部分を掲載)

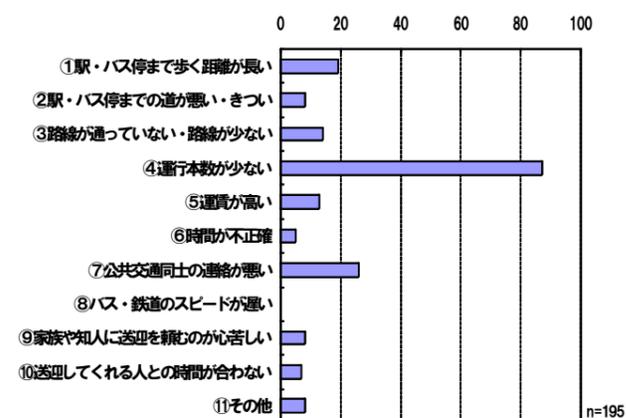
【公共交通の満足度】

・公共交通利用者の52.1%が不満と感じている。



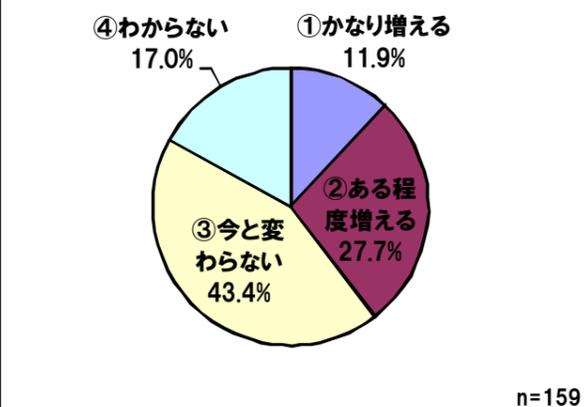
【具体的な不便内容】

- 1位：運行本数が少ない。
- 2位：公共交通同士の連絡が悪い
- 3位：駅・バス停まで歩く距離が長い。



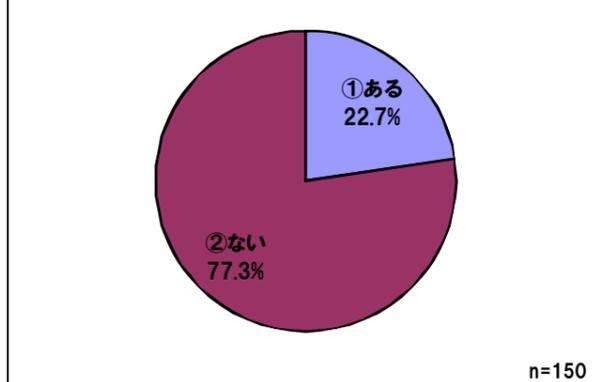
【不便改善による利用機会】

・便改善しても「今と変わらない」と回答された方が43.4%。「利用機会が増加する」と回答された方を上回っている。

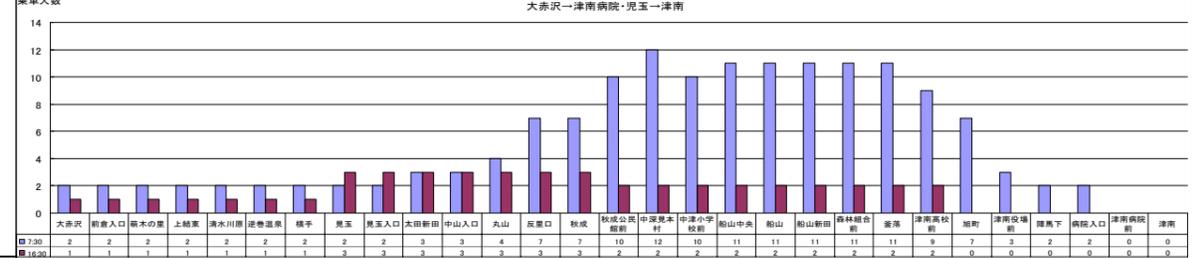
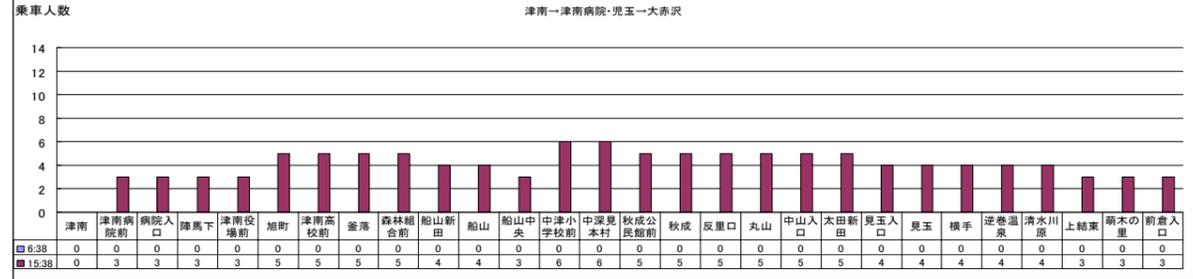
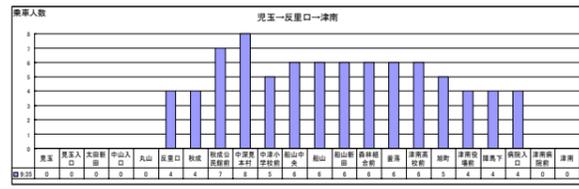
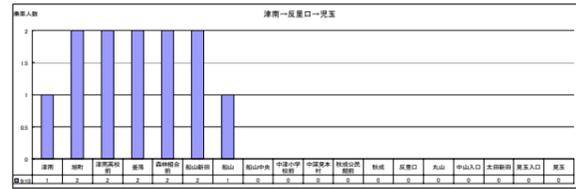
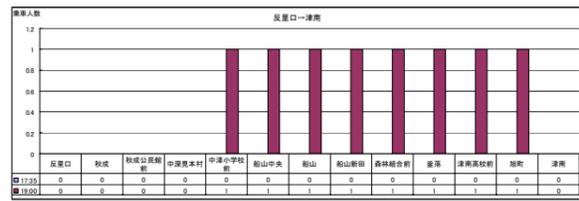
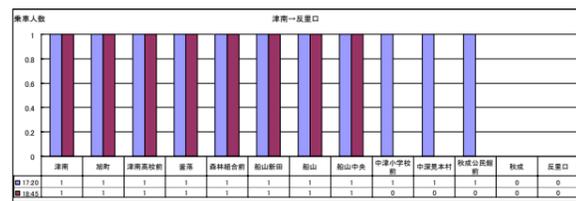
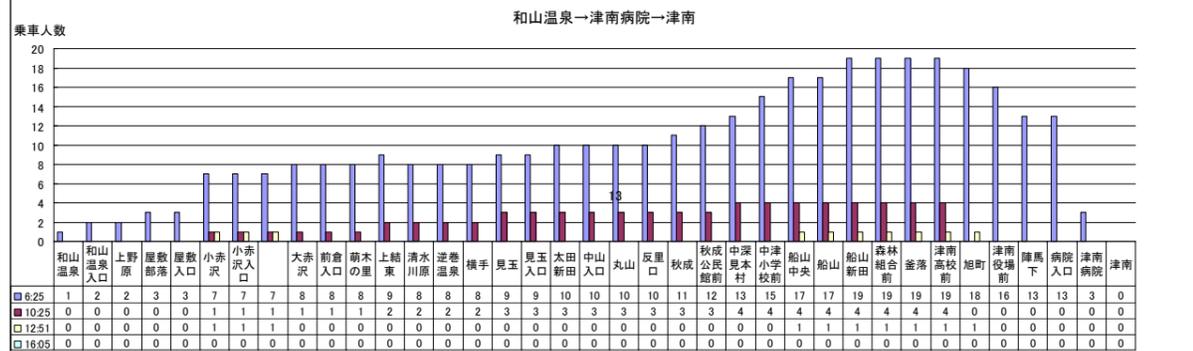
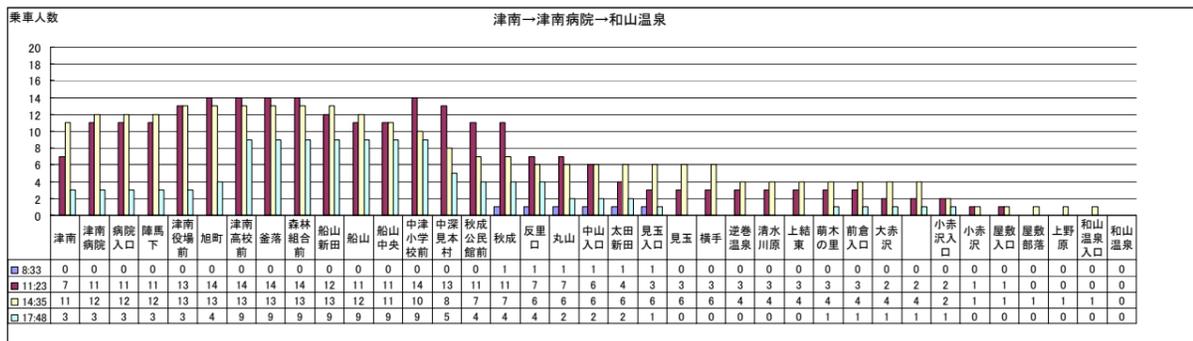


【行き来できない施設・エリアの有無】

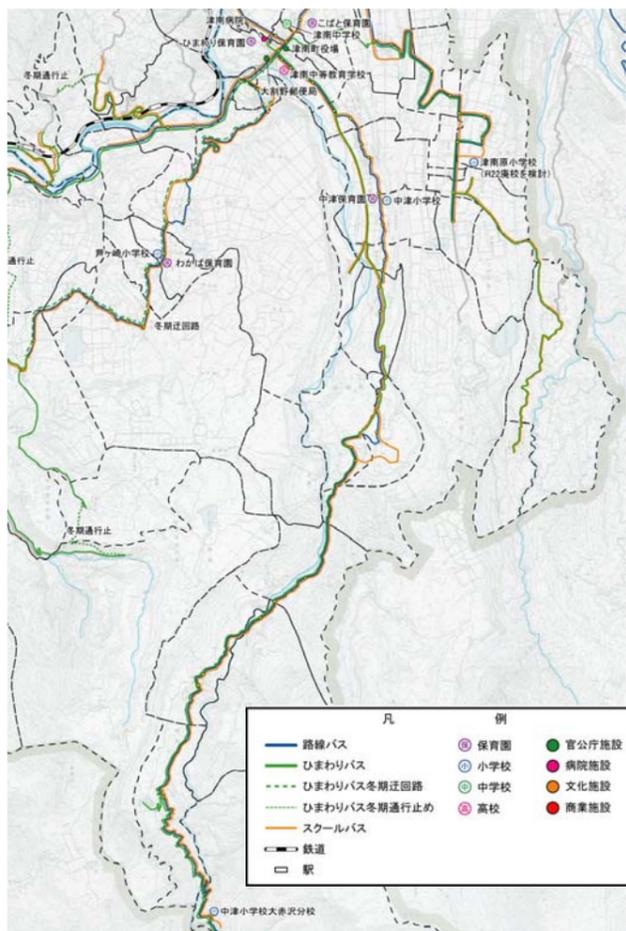
・公共交通で行き来できない施設・エリアがあると回答している方が22.7%。



路線バス乗降調査結果(H19.6 データ)



既存公共交通の重複状況



当該エリアの問題点・課題

【路線バスとスクールバスの重複状況】

- ・スクールバスは、津南中学校への登校時に対応して運行している。このバスは中津小・大赤沢分校児童の集合学習時、また、本校へ登校する際にも、大赤沢～中津小間(混乗)で利用する。
- ・しかし、スクールバスの運行ルートは、路線バス「津南～和山温泉線」と、ほぼ同じルートを運行する状況にある。
- ・また、当該地域では、ひまわりバスも運行しているが、ひまわりバスについても路線バスと、ほぼ重複するルートで運行(運行時間は、重複していない)している。

【ルート重複】

- ・路線バスとひまわりバスは概ね全区間重複。

【時間重複】

- ・路線バス：大赤沢 7:30 発 津南病院 14:35 発
- ・ひまわりバス：大赤沢 9:45 発 津南病院 13:45 発 (時間重複無し)

【その他の状況】

- ・津南～大赤沢(和山温泉)間は、区間延長が長く集落も分散しているため、路線バスについて、効率的な運行を行う上でのルートの見直しは現実的に困難な状況にある。
 - ・ひまわりバスについては、運行してはいるものの、バス車両の問題で対応できない地域が、当該地域には広く存在している。
- 【今後予想される変化状況】
- ・特になし。

当該エリアの公共交通ネットワーク見直し・再編イメージ

【公共交通ネットワークの見直し・再編】

- 方向性①：路線バスは現行運行を維持しつつ、通学に配慮した運行形態に見直し変更
- ・区間延長が長く、効率的な運行を行うルートの見直し・再編が困難なことから、原則、現行のバス運行状況を維持する。
 - ・スクールバスとの重複を解消するため、通学に配慮した運行ルート・運行ダイヤに変更する。具体的には、運行ルートは津南中学校まで延伸し、運行ダイヤは学校の登下校時間に対応したものに变更する。
- 方向性②：乗合タクシーの新たな運行(へき地・公共交通未対応地域へ対応できる交通として)
- ・当該地区内には、路線バスやひまわりバスで対応できない地域が広く存在するため、小回りの効く乗合タクシーを導入し対応(運行形態は、多目的で利用可能な定時デマンド方式)する。
- 方向性③：スクールバス運行の見直し(路線バスによる代替運行)
- ・上記①の变更に伴い、現在運行するスクールバスは取りやめの方で見直す。
- 方向性④：ひまわりバス運行の見直し(乗合タクシーによる代替運行)
- ・上記②の变更に伴い、現在運行する「ひまわりバス」は取りやめの方で見直す。

